

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

「いのち」

富山市立新庄小学校3学年児童
平成21年10月22日実施

【いのちの先生】

白山 富喜子先生

【授業の概要】

- 1 導入及び「いのちの先生」の紹介
 - (1) 入院中のトシちゃんに対するお母さんの気持ちやかかわり方の話をする。
 - (2) 児童にトシちゃんのお母さんの気持ちを考えさせながら話を進める。
 - (3) 全体を通しての感想を求めながら「生きることと死ぬこと・いのち」について考えさせる。
- 2 いのちの先生の話
 - (1) 「トシちゃんの事故」の話をする。
 - (2) 話をしながら、必要な場面で立ち止まって児童に感想を求めながら学習を進める。

<トシちゃんの事故の話>

おばあちゃんの家に遊びに来ていたトシちゃんは、スーパーマンになった気持ちで3階の窓から飛び降りてしまった。病院に運ばれたがしばらくは意識もなく、お母さんの必死の呼びかけにも反応しなかった。しかし、トシちゃんの良い音楽をかけ、お母さんは毎日毎日横で話しかけながら、手を握り、回復を祈った。その2週間後、本人にかすかな変化があり、それが大きな変化へとつながっていった。そして回復し、退院となった。

トシちゃんに意識が戻って最初に言った言葉は「ママ」だった。私は家でお母さんに「私が初めてしゃべった言葉は何か。」と聞いてみた。私も「ママ」という言葉を最初に覚えたそうだ。同じだった。

今日の学習では二つのことを感じた。それは、親は子どもを思っていること、普通に生きているって当たり前のことじゃなくすごいことだということだ。小学生でこの話を聞いてよかった。このことは忘れない。

楽しいお話かと思ったら悲しい話もありました。そして、自分がトシちゃんのような事故にあったら、親がどれだけ心配するかということが分かりました。

それから脳は12程度の機能があるけれど、けがをしてそこを悪くすると体に障害が残ると知りました。毎日お話を思い出して生きている時間を大切にします。

私のおばあちゃんが病気になり、何もしゃべることができなくなってずっと病院に入院していました。今日は、トシちゃんのお母さんが一生懸命トシちゃんに話しかけ続けたことで眠っているように見えても分かって聞こえているということを知りました。おばあちゃんに「大好きだよ。」とそばで言ってあげたらよかったんだと思いました。でも、私は言っていませんでした。もっと早くこの話を聞きたかったと思います。今度の私の誕生日には「お母さん産んでくれてありがとう、大好きだよ。」といいます。

保護者からの手紙

葉書をありがとうございます。うれしくなりました。あなたが生まれたときは仮死状態で急な手術になり、大変でした。体重も少なかったけれど、無事に生まれ、元気に育っていることがお父さんもお母さんも本当にうれしいです。いのちの学習をしたそうですが、生まれてきたことを当たり前と思わずに、自分のいのちを大切にしてください。そして、他の人のいのちも思いやることのできる人になってください。

最近自分からいのちを失う行動をとってしまう人が増えています。せっかく生まれてきて、たくさんの方に挑戦できるチャンスをもたらされたのに、悲しいことだと思います。今回、息子はいのちの大切さを理解したように思います。強くたくましく、何度でも頑張る気持ちをもつことができれば自分のいのちはもちろん、周囲の人のいのちも大切だと思い、いたわる気持ちが育っていくと思います。自分がどんな大人になりたいのか、どんな人間として生きていくのか目標をもってほしい、困ったときには周囲の人や両親に相談できるようになってほしいと願っています。応援しています。